



田空だより なすの大地 第4号

2004年11月号(通巻第4号)
那須野が原西部田園空間博物館運営協議会
企画広報部会 編集・発行

会長あいさつ

那須野が原西部田園空間博物館運営協議会 会長 安田 朝吉



このたび、井口忠前会長の後任として田園空間博物館運営協議会の会長を仰せつかりました安田であります。

私は、西那須野町の西地区コミュニティ運営協議会会長であり、この協議会が設立された当初より、副会長職についておりました。

本地区の田園空間博物館は、西那須野町全域と塩原町の横林・接骨木地区の有する豊かな自然や疏水、湧水、開拓にまつわる史跡など野外にあるものを展示物とみだてた「屋根のない博物館」です。

4月23日に開館した那須野が原博物館に併設されている総合案内所を拠点として、西那須野町の東地区・三島地区・大山地区・中央地区・南地区・西地区、塩原町横接地区の7地区コミュニティの田園空間整備事業部会と連携し、地域住民の皆様とともにこれらの保全・復元や活用を図って美しい田園空間の創造と地域の活性化を目指し、全コミュニティと関係団体のご協力をいただきながら活動を進めてまいります。

関係団体の皆様はもとより、地域住民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。会長就任の挨拶といたします。

那須野が原西部田園空間博物館総合案内所 開館

去る4月23日、那須野が原博物館と同時に田園空間博物館総合案内所も開館となりました。これを記念して、4月23日から5月5日まで記念行事を開催いたしました。

①博物館開館記念講演会

4月24日の午後2時より那須野が原博物館研修室において、講師に松方峰雄氏を招き講演会を行いました。

「大地に夢を追う ～那須野が原と松方正義～」と銘打ったこの講演会には120名を超える参加をいただき、会場が満杯になるほどの盛況ぶりでした。裏面に講演の要旨を掲載します。

(紙面の都合上、那須野が原に関係する部分についてのみ、本号と次号で掲載いたします。掲載文は本会会員植木不二夫の整理によります。)



②写真展



4月23日午後～5月5日まで、博物館のエントランスにおいて、各コミュニティに点在するサテライトの写真展を開催しました。

観覧に来られた方には大変好評をいただきました。また、地元の方でも知らないところがあったらしく、地域の再発見にもつながる企画となりました。

サテライト紹介 (第3号・第4号)

○乃木清水 … 石林

乃木清水は乃木神社内で湧き出す泉で、乃木希典がこの水で顔を洗ったといわれています。

清水は5月ごろから翌年の1月ごろにかけて出釜から湧き出していますが、それ以外のところから湧き出している箇所も見られます。

ここでは、町の天然記念物である「ノギカワモズク」を見ることができます。

現在、右の写真のように水路沿いに散策路が整備されていますので、自然とのふれあいを存分にお楽しみください。



○松方別邸 … 千本松



千本松牧場内にある松方別邸は、明治時代に総理大臣を務めたことのある松方正義が別荘として建てたもので、1階が石造、2階が木造という少し変わった造りになっています。

1904(明治37)年、大正天皇が皇太子の時にこの別邸へご駐泊の際、日露戦争で遼陽が陥落したとの報が届き、一同で万歳をしたところから、「萬歳閣」とも呼ばれています。

なお、ここは私有地であり、現在も関係者の方が利用していますので、敷地内には入らずに見学デッキからご覧ください。

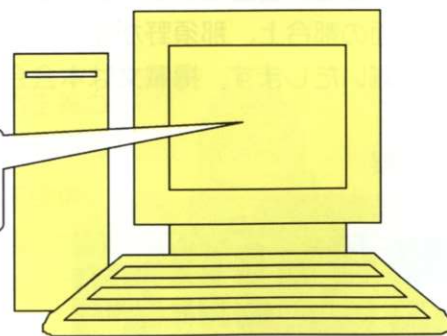
お知らせ



田園空間博物館のホームページを作成します。

那須野が原西部田園空間博物館のホームページを作成します。ホームページ作成に興味をお持ちの方、一緒に作ってみませんか？

問合せ先
那須野が原西部田園空間博物館運営協議会事務局
(西那須野町役場経済部農林課内)
TEL0287-36-1111 (内線231)



大地に夢を追う ～那須野が原と松方正義～

4月24日に開催された講演会についての要旨

《明治12年の松方の足取り》

運河構想をもっている栃木県としては、この際ぜひ政府首脳に那須も見せるべきだと、地元の有力者、印南と矢板が東京に出向いて松方に「福島あさかの帰りにぜひ寄って見て欲しい」と接触している。大正6年に発行された那須郷土誌によると、それでも心配な矢板は、安積あさかの起工式に向かう一行を熱海（福島県）まで追いかけて面会し「帰りにぜひ」ともう一度念を押している。その時松方は「実は来がけに佐久山に泊まり、その翌日大田原までの途中、貴方達が知らないうちに那須野が原の荒野を実際に見てきた」と全く関心がないわけではないことを伝え、「水利のことだけにとらわれず、速やかに同志を募り広大な土地の開墾に着手するべきではないか」と言ったとされている。

10月27日の起工式を終えた松方は、その後山形に向かった。山形では県令の三島通庸みちつねに会う。三島に会った際どんな話がでたのか、目的は何だったのか判らない。会談の中で三島は松方に対し「どこか開墾によい場所はないか」と尋ねている。「あるよ、那須がいい。山形と東京を往復するときしょっちゅう通るので経営にも都合がいいじゃないか」と答えている。この会談で三島は那須野が原の開墾に心を動かされるのである。

山形の帰りに那須に寄るわけだが、鍋島県令・印南・矢板は白河まで一行を出迎え、那須温泉に一泊し、翌日那須野が原を検分しながら烏が森までおりて来て、ここで会談するという段取りであった。東京を出たのが10月21日、烏が森の会談が11月14日でこの日はずいぶん風の強い寒い日のようであった。

《烏が森の会談》

この会談は、政府側が伊藤・松方、地元側が鍋島県令・印南・矢板の3人で、地元側は、「運河構想を国で実施して欲しい」との嘆願であり、それに対し政府側は「運河構想よりも開拓が急務である。開拓をやるなら大農法でやりなさい」というようなことであった。安積は士族授産の事業として国が行うことになっている。国が予算をつけ、疏水を引き、開拓者を移住させることで、当時65万円の予算がついている。国としては西南戦争の影響で財政が厳しく、安積はともかく、那須まではとても手が回る状態ではなかった。地元側は頼む一方であったが、政府側は苦しい立場で、結局民間の手による開拓を進める以外になかったと思われる。

《松方は那須の事情を知っていた？》

松方はどうして烏が森の会談で、すぐ民間の手による開拓を勧めたのだろうか。国の台所事情が厳しかったこともあろうが、何も知らないのでは勧めることもできない。実際に那須野が原を見たのは福島に行く途上と、帰途烏が森に来る道中だけだが、実は、明治3年大田原藩の那須開拓計画が民部省みんぶしょうに提出された時、これを受けたのが民部大丞時代の松方であった。さらに安積開墾に関する南一郎平らの調査報告で、那須の事情は福島・宮城・青森などと一緒に松方へ報告されている。実際に目でみたのはこの時が初めてであったろうが、予備知識は十分にあったはずである。それに先頃フランスで見てきた向こうの広大な農場と、風光明媚な那須の立地条件をダブらせて見たことも考えられる。また、山形で三

島に対し那須を勧め、その感触も良かった。口にはこそ出さないが、開拓の核となりそうな人物の目処も心中にあったからではないかと推測するのである。

《烏が森の会談を契機に》

烏が森の会談を契機として、開墾の機運が一気に高まり、明治13年には三島の^{ちようこうしゃ}肇耕社、地元の那須開墾社が、明治14年には薩摩の大山・西郷の加治屋開墾、それに郡司開墾など次々と設立されることになった。

《那須と安積の違い》

那須と安積の大きな違いは、安積は国営事業としてやる開墾であるのに対し、那須の場合は同じ開拓事業でも民間でやる点である。国営であれば地元のリスクはまずないが、民間でやる那須の場合はリスクがあるわけで、民間事業としてやる以上、しかるべき者、誰か開墾に関心があり、資力があり、しかも信頼のおける大物をもってこないと事業はできないだろう。松方はそこまで考えて山形へ行って三島に話したかどうかは知る由もないし、記録を見た限りではそのような形跡もない。たまたま山形へ赴いた松方に、県令の三島は開墾の適地を訊ね、松方は那須を勧めた。

その三島は翌年にはここに来て開墾を始める。これはあまりにも早すぎる。やはり事前に打診か何かあったのではないかと考えたくなる。当時は情報の通達が非常に遅い時代である。三島の決断は情報が発達している今でも考えられないほどの早さである。三島は地位もあり、松方とは同じ薩摩出身だ。お互いに話し易く、それだけに信頼関係も良かったと考えられ、那須の開墾を託すにふさわしい人物だったのではないだろうか。三島のあと、ここで農場を開く大山・西郷にしても薩摩の仲間で大物である。なぜ、薩摩だけがこれほど集まったのか。不思議とこの西原（西那須野）は薩摩の出身が多いのである。これには以上お話ししたような事情があったからではないだろうか。東原（東那須野）や矢板には長州閥が多く開墾に入っているが、ずっと後になってからのことである。

よくこの辺に華族農場がつくられたといわれ、何か華やかなものと思われがちである。しかし、記録を見ると開墾は大変な苦労が伴っている。元来、農耕民族だし、薩摩の先輩大久保が推し進めた殖産事業、また、その遺志を継いだ同郷の松方に賛同・協力して開墾をしようとしたのではないかと思うのである。

（この続きは次号掲載いたします。）

講師プロフィール

松方 峰雄（まつかた みねお）

東京都出身。明治の元勲、内閣総理大臣を歴任した松方正義の孫。慶応大学法学部政治学科卒業。元日本航空国内旅客総本部副本部長。退職後、(株)ジェイエアの副社長として小型航空機による都市間コミューターの経営にあたる。福島空港建設にも携わり、福島県しゃくなげ大使、同県須賀川市の牡丹大使になっている。

